

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2020 年 4 月 22 日
報告者	岡本 和秀
助成団体名 (所属団体名)	一般社団法人やす地域共生社会推進協会
団体住所	〒 520-2423 滋賀 <small>都道 府県</small> 野洲市西河原2597
団体電話番号	090 — 3371 — 5306
代表者 (助成対象者)	岡本 和秀
助成対象事業	商助で実現する福祉と経済の融合事業の推進
事業（助成）期間	2019 年 5 月 1 日 ~ 2020 年 3 月 31 日
事業費総額	885,150 円
助成金総額	884,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

高齢者と地元企業をつなげることで高齢者の見守り・生活支援を充実させ、同時に地域経済の活性化によってそれらの持続性を保つことを目的に事業を実施しました。

事業詳細

1. 70歳からのタウン情報誌「おたのみやす」を発行しました。(2,000部)
この情報誌には、当会の目的と活動にご賛同いただける商店・企業とそのサービスを掲載し、サービス提供時には高齢者の生活状況を確認して当協会への報告をいただくフローを構築しました。
(参考として情報誌を添付)
2. スマホなどの機器の扱いが苦手な高齢者と掲載商店にスマートフォン勉強会を開催しました。高齢者とまちが簡単に繋がれるよう、SNSを活用したグループ構築、情報連携の強化を図り、SNSを活用したみまもりグループの構築に成功しました。
3. 野洲市をみまもりタウンとして確立させることを目的に、ステッカーとポスターを制作しました。ステッカーは、まちの企業が営業車等に貼って頂きやすいよう華やかな仕上がりにし、ポスターは、野洲市住民がスマホを掲げてみまもりが具体的にイメージできるものを制作しました。
4. まちづくりに関わる協会員と住民向けに、地域共生社会の考えを浸透させるべく、専門講師を招いたセミナーを開催いたしました。

3、事業成果

1. 70歳からのタウン情報誌に掲載される在宅支援サービス事業を集め、在宅支援が必要な後期高齢者に情報誌を届け、確実に利用してもらえる関係を築く。

《掲載関連》目標社数：50社/目標サービス数：80サービス

⇒実績：26社/52サービス

高齢者向け冊子の制作にあたり、目標の企業数とサービス数には届きませんでした。54ページにわたる高齢者向け情報誌として制作ができました。

《配布関連》目標300軒

⇒実績：高齢者宅958軒、事業所30社

野洲市社会福祉協議会との協力も得ながら、後期高齢者の居宅に直接配布することができ、効率的かつ効果的な配布ができました。

2. 地域の商店主など前期高齢者層を中心とした、スマホなどの操作方法やICTの活用ノウハウがない「サービス提供側」「みまもり側」の人に対してスキルアップ研修会を開催する

受講人数目標80名

⇒実績：参加者数57名

高齢者ならびに野洲市内の事業者等に参加してもらい、スマホやSNSを活用した新たなつながり、さらにはサービスの受注やみまもり活動の活性化が図れました。

3. 野洲市内の店舗の入り口や市内を走る車にステッカーを貼ってもらい、地域の盛り上げを促す。

目標ステッカー数500枚

⇒実績：2,000枚

業者調整により、予定発行数を大幅に上回る制作ができました。みまもりに協力する市内企業の協力を得て、まちを走る車に貼って頂いております。

4. 専門家による指導により、野洲市に於ける地域共生社会の認識を深める

受講人数目標40名

⇒実績：通算参加47名

予定の定員数を超え、地域共生社会に対する考え方の浸透を図ることが出来ました。

4、今後の課題など

「1-1. 70歳からのタウン情報誌に掲載される在宅支援サービス事業を集める」に関しましては、目標である掲載者数やサービス数に到達しなかったものの、振り込め詐欺等の注意喚起の広告や防災に関する記事も充実させ、高齢者のニーズにマッチした情報誌を制作することが出来ました。今後の課題といたしましては、掲載企業やサービスを増やし、安定的な予算のもと継続的な発行ができるよう、支援者を増やすことを課題としております。

「1-2. 在宅支援が必要な後期高齢者に情報誌を届け、確実に利用してもらえる関係を築く」につきましては、野洲市社会福祉協議会の協力を得て高齢者に直接配布する手法が取れました。配布して把握できたこととして、情報誌の地域ニーズがとても高く、今後は発行部数も増やし、介護事業所やケアマネージャー、自治会など地域や高齢者をサポートする関係者にも配布ができるよう段取りを進めて参ります。

「2. 地域の商店主など前期高齢者層を中心とした、スマホなどの操作方法やICTの活用」につきましても、同様に、より多くの高齢者の理解力を高めるため、協会独自で継続して普及活動を実施して参ります。

「3. 野洲市内の店舗の入り口や市内を走る車にステッカーを貼ってもらい、地域の盛り上げを促す」につきましては、みまもり実施中の媒体としての活躍をさらに促すため、市内企業への案内を行います。

「4. 専門家による指導により、野洲市に於ける地域共生社会の認識を深める」につきましては、予定参加数を上回りましたが、考え方の普及という観点では繰り返し実施することでより理解度を高めることが必要であり、今回学んだ内容をバージョンアップして地域性を盛り込んだ内容にして、地域住民へ継続発信して参ります。